

会 議 名	平成 29 年度第 2 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会
開 催 日 時	平成 29 年 6 月 7 日（水） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開 催 場 所	板橋区役所 6 階 教育支援センター研修室 A
出 席 者	<p>17 人</p> <p>〔委員〕石垣委員（部会長）、竹内委員、吉田委員、依田委員、中尾委員、皆川委員、手島委員、小泉委員、田坂委員、戸田委員、長谷川委員</p> <p>〔幹事〕資源環境部長</p> <p>〔事務局〕環境課長、環境戦略担当課長、清掃リサイクル課長、板橋東清掃事務所長、板橋西清掃事務所長</p>
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴可）
傍 聴 者 数	0 人
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について</li> <li>次期計画における課題と施策の方向性について</li> </ul>
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回部会での主なご意見・検討手順の整理</li> <li>・さらなる発生抑制（リデュース）について</li> <li>・資源分別によるリサイクルの推進について</li> <li>・板橋区の資源・ごみ量等について</li> </ul>
審 議 状 況 （会議概要）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定についての審議</li> </ul>
所 管 課	資源環境部清掃リサイクル課計画調整係      Tel.3579-2218

## 1. 開会

○新井清掃リサイクル課長：定刻になりましたので、第2回清掃リサイクル部会を開会させていただきます。今日は、委員の皆さま方にはご多忙のところご出席たまわりましてありがとうございます。

まず、審議に入る前に資料の確認をお願いします。一番最初に、「次第」でございます。続きまして「座席表」。資料1「第1回部会での主なご意見・検討手順の整理」。資料2「さらなる発生抑制（リデュース）について」。資料3「資源分別によるリサイクルの推進について」。参考資料「板橋区の資源・ごみ量等について」。以上です。もし不足がございましたらお声掛けをお願いします。

また、机上には第1回部会の議事録をお配りしております。ご発言いただいた内容につきまして後ほどご確認をいただき、訂正等がございましたら、6月20日の火曜日までに事務局にご連絡をお願いします。また、第1回のご出席されなかった委員の皆さまにも参考としてお配りさせていただいています。

なお、本日の欠席委員さんの報告でございますが、平山副部長と櫻井委員のお2人からご連絡をいただいています。

それでは、石垣部会長、審議の進行をお願いします。

○石垣部会長：改めまして、皆さまこんにちは。本日、梅雨入りしたこともありましてちょっと蒸し暑いなという感じでお集まりいただいているかと思います。たぶん、この会議やっている間に雨が降ってくるじゃないかなと思います。

最初の部会のときにスケジュール感も出していただきましたけれども、夏ぐらいを目途に立て続けに部会をやって取りまとめていく方針ですので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

前回第1回の部会で非常に広範なご意見をいただきまして、その議事録もいただいておりますが、そこからご意見やご質問、これを資料1にまとめていただいております。そこには区がどのような方針で集めるかという回答もありますので、そちらのご説明をまずいただきたいと思います。事務局、よろしくお願いいたします。

## 2. 議事

### (1)板橋区一般廃棄物処理基本計画（第四次）の策定について

○新井清掃リサイクル課長：それでは、資料1をご覧ください。「第1回部会での主なご意見・検討手順の整理」でございます。こちら表形式にさせていただいております。

はじめに人口動向です。こちらのご質問関係は、この資料1で取り上げておりますので、後ほど説明させていただきます。

発生抑制につきましては資料2で、同じくリサイクル関係のプラスチック類・古紙・古布につきましては資料3で取り上げております。なお、土の回収につきましては、販売店での回収

について、私ども確認しているところですが、困難であるというものです。なお、区では従前地域コンポスト事業で、不要な土を回収していましたが、今現在事業自体が縮小となっており、土の回収はやっていない状況です。

続きまして、分別等の周知と事業系ごみにつきましては、第3回の部会で取り上げる予定でございます。

続きまして、集積所の管理です。前回お話したように、基本的には地域で集積所を決めていただくことになっております。

水銀の処理です。こちら、第3回部会で方向性を検討させていただく予定です。

計画の目標の関係です。こちらは、第4回部会で検討させていただく予定です。

1枚おめくりください。今後の検討スケジュールを図にしたものです。左側につきましては、前回の部会の資料5で提示させていただいた課題です。

1番の「ごみの減量・リサイクルの推進」のうち、「(1)さらなる発生抑制(リデュース)」  
「(2)資源分別によるリサイクルの推進」につきましては、本日資料2、資料3でご検討いただくものです。続きまして「(3)効果的な普及啓発」です。こちらは、次の「適正処理の推進」と併せまして第3回の部会で検討させていただく予定です。

3の「その他」です。ごみ減量・リサイクル目標の見直しにつきましては、第4回の部会でご検討いただくと考えているものです。

右のページ、人口および世帯数についてです。これは1回目の部会でお尋ねのあったもので、人口の増加の内訳となっております。人口増の要因は、その一つとして外国人の人口の急増があげられます。総人口の増加率は、平成23年度に一度マイナスになりましたが、その後プラスに転じて、ここ2年間は1%、およそ6,000人前後の増となっています。それに比べまして、外国人は、特にここ2年間は対前年比で10%以上の伸び、2,000人前後の増となっています。

年代別に見ると老年人口の増加が目立っています。0～14歳の年少人口はここ数年500人前後の増です。平成16年度の人数から比べまして4.2ポイント、約2,500人の増です。

続きまして、生産人口です。こちらは、約3,000人から4,000人の増加となっておりますが、平成16年から比べましてマイナス1.4ポイント、人数では約5,000人の減となっています。

最後、老年人口です。こちらは、生産人口と同様に約3,000～4,000人の増となっておりますが、平成16年から比べまして毎年増加し、40.4ポイント、約3万7,000人の増となっています。

4ページです。こちらは、世帯構成の変化です。ごみの出し方があまり良くない世帯として単身世帯がありますが、微増となっております。

下の表です。棒グラフですが、こちらの白い棒グラフが、単身世帯の総数です。平成22年から平成27年にかけて、約1万2,600世帯の増です。この濃いめの網掛けのところが内数でございます。65歳以上の単身世帯です。単身世帯の伸びが約1万2,600世帯であり、半分近くの約6,800世帯が、65歳以上の単身世帯の増加となっております。説明は以上でございます。

○石垣部会長:ありがとうございました。前回いただいたご意見等に対する対応、それから今後、特に今日の部会で何の話をするかというご説明。それから、前回の部会で少し話題になった外

国人の方や、単身世帯の方に対する支援、周知といった話があったと思います。その基本的な情報となるデータについて情報提供をいただいております。

皆さまの中で、これは漏れてるところがありますとか、何か気になったようなところがございましたら、ご意見よろしく願いいたします。

○手島委員：リサイクルの古布の件ですが、前回高齢者の方がお出しになるのが大変というご意見に対して、宅配便の補助ということを申し上げましたが、私自身迷ってます。というのは、確かに経済的な援助は必要かも分かりませんが、その前に、その方たちが、例えば地域で「私たちこういうの持ってて、リサイクルセンターなり地域センターに持っていけないのよね」と言ったときに、「じゃあ、代わりに持って行ってあげる」とか。そこで人とのつながりというのできるのではないかと危惧をいたしております。

そういう会話をすることによって、あつてはほしくないですが、大災害が起きたときに、あそこは1人暮らしとか、あそこは高齢者だけとか、そういう方を地域内外問わず把握してくださると思うんですね。そういうことにもつながるので、やはり金銭的な補助っていうのはいかがかしらと考えております。

○石垣部会長：ありがとうございます。何か回答できることがございましたらお願いします。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。私どもでできることは、今後もしろいろな面でやっていきたいと思ってる反面、地域にお住まいの皆さま方の絆というか、横とのつながりも大事にしていかなければいけないと思ってます。

○石垣部会長：ありがとうございます。ごみの話、資源循環、リサイクルの話ではなくて、地域とかコミュニティーのネットワークなりコミュニケーションというのを維持して、あるいは高めながら、ごみはその中の一つで、ごみ出しをみんなで助け合うとか考えるっていうのは一つのツールであると思います。

まちをどういうふうにつくっていくかが非常に重要で、手島委員がおっしゃった、いわゆる災害時に、地域のお互いのことを知っていることで助け合いができるというのは、災害の規模を少しでも減らすことにつながるのではないかと思います。

○依田委員：町会の方たちはいいですけど、われわれ商店の人は昼間は一切そういうお手伝いはしてもらえないんですね。夜の9時過ぎとかだったら、ごみ出しとかそういうことでも手伝ってもらえるんですけど。ご近所はやっぱり皆さん商売やってますからそういうわけにもいかないので。夜出したらまずいし。いろいろそういうことがあるんですね。

会合でも私は今現役でいろんなことやってますけれども、自分自身が動くのがやっとなで、そんな荷物をどっかに持っていくなんてことはできないんですね。うちのほうの結構お年を召してる方も、みんな足が痛いとか、腰が痛いとか、もう本当に階段上がるのも手であがらなくて

はならない感じの方ばかりなんですね。

ですから、町会は結構まとまっていますけれど、商店街っていうのはそれぞれ営業もありますので、そういうわけには、なかなかいかないんですね。

○石垣部会長：ありがとうございます。特に板橋区は私の把握してる知る限りでは、そういう商店街とか小さい規模でいろいろ営業されてる方もたくさんいらっしゃいます。そのいろいろな方のいろんなご意見・お困りごとを叶えられるかたちに少しでもできればと思います。今後検討するときに、今いただいたご意見も含めながら考えていただければと、取りまとめに反映させていただければと思います。

○吉田委員：古布の集積所回収ってできないかということですが、月1回でも2回でもそういうことができれば、拠点へ持っていくより、だいぶ変わると思います。以上です。

○石垣部会長：その辺の話は、今日資料3でご説明あるんですかね。

○新井清掃リサイクル課長：はい。少し触れさせていただきます。

○石垣部会長：ですので、またあとでその議事としたいと思います。

○竹内委員：私、町会連合会をしてまして、地域が求められてるものは、まさに手島委員のおっしゃるとおりなんですね。それで、今地域づくり会議だとか、あるいは町会の見守り活動だとか、いろんなことを社協あるいは町会連合会でやっております。

今改めて商店街の方のご意見もありましたけども。やっぱり、地域全体で見るっていうことが必要になってくるんじゃないか。それがまた防災とかにもつながってくるとは思います。改めて、地域の役割というのを実感させていただきました。

○石垣部会長：ありがとうございます。コメントとしてお聞きしておきたいと思います。ほかはよろしいですかね。おそらくお聞きになりたいことは今日の議題で、資料2、3のご説明で出てくると思いますので、もしよろしければ次の議題をお願いします。

○田坂委員：私どもが住んでいるところは住宅街でして、昔からいる人は知ってるんだけど、知らない顔ばかりなんですよ。それで、集積所にもたくさんの不法投棄があるわけです。誰がやったものかさっぱり分からない。最終の処理はどうなってるのか。結局、そのうち処理されてるみたいです。私のところは何のためにつくったか分からない広い道路があるので、集積所にも問題ないわけなんです。そこに。

○石垣部会長：集積所の管理というところですかね。

○田坂委員：そうです。で、管理はどうしてるかという、住民が持ち回りでやってるんですが。住民っていうのが、そこに昔から住んでる人だけなんですよね。新しく入った人は、半分以上の方が一切手を出してないけれども。管理を任されて順繰りに任されてる人は、不法投棄なんかしないですけども。どこで出てくるか分かんない不法投棄が随分出てくるわけです。それ、非常に困ってるわけなんですけどね。

○石垣部会長：もし、おっしゃられてるのが本当の意味での不法投棄であるならば、きちんと区役所に連絡、あるいは、もしかしたら警察に通報するようなことになることだと思います。そうではなくて、単に曜日が違うとか出してはいけないものを出してるとかっていうところなら、そういう意味での不法投棄という言葉には当たらないんじゃないかなと思いますが。

○田坂委員：寸法的に、大きいものなんですよ。

○石垣部会長：例えば粗大ごみということですかね。

○田坂委員：ええ。それも、結局ちゃんと梱包だけしてあるんですよね。ただ、普通のごみ袋とは全然違うわけです。大きなトランクの中にいっぱい詰め込んで出してある。名前も何も書いてないから、誰が出したのか分かんない。

○石垣部会長：有料ごみの処理に関しては、今日ではなくて次回の部会でお話することになってますんで、次回の議題とさせていただきますとよろしいでしょうか。

○田坂委員：分かりました。

○石垣部会長：続きまして、板橋区一般廃棄物処理基本計画第四次の策定に当たって、今回の課題と施策の方向性について、今日はごみの減量・リサイクルの推進という項目の中で、「さらなる発生抑制（リデュース）」、それから「資源分別によるリサイクルの推進」。この項目について審議したいと思います。

はじめに、このリデュースの部分。「さらなる発生抑制」というところについて、資料 2 を使って事務局のほうからご説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○新井清掃リサイクル課長：それでは、資料 2 をご覧ください。リデュースはリサイクルなどよりも優先されてお願いしているところです。不用品のリユースなども含めまして、それぞれの視点と考えられる施策の方向性につきまして整理していきたいと考えています。

まず、1 番の生ごみの発生抑制についてです。検討の視点です。区民の水切り行動につきましてはある程度定着しているところですので、生ごみの発生抑制・排出抑制に向けまして、賞味期限切れや食べ残し等の「食品ロス」、こちらの削減対策を進めてまいりたい。これが効果的と考えています。

そのほか、コンポスト化等の家庭内処理。園芸等に堆肥として利用できる世帯が限られているわけですが、それぞれ一定の限界はあるものの、引き続き支援をしていきたいと考えているところです。

生ごみの排出量です。生ごみの排出量は年間約 3 万 3,000 トンと推定されているものです。こちら、参考資料の 2 ページになります。一度ご覧いただければと思います。1 枚おめくりいただきました下の図表 3 です。こちらの 7 行目の「生ごみ」です。こちらをご参考にご覧いただければと思っています。

資料 2 に戻らせていただきます。食品ロスの量は、国の資料では生ごみの中の約 34.3%。3 分の 1 が食品ロスと言われてます。区の全体量が約 3 万 3,000 トンで、こちらに 3 分の 1 を当てはめると、約 1 万 1,000 トンというのが食品ロスと推定されています。

この約 3 万 3,000 トンを区民 1 人 1 日あたりに換算すると、生ごみ量が 162 グラム。そのうち食品ロスは 1 人 1 日当たり 56 グラムと推定されます。

続きまして、生ごみ減量対策の状況です。多くの世帯では水切りをいただいています。ただし、賞味期限切れや食べ残し等の食品ロスを出さないための取り組みには、まだまだバラつきがあります。

1 枚おめくりください。こちら、生ごみを出すとき水切りをしている割合です。これは前回の資料にも掲載させていただいてるものです。

ここで考えられる施策の方向性です。こちら、区民団体や企業と連携してフードドライブ等を展開しまして、区民の関心度アップと取り組みの向上を促進させるというものです。区としては、食品ロスの取り組みにつきまして、飲食店の協力を得ながら協力店制度の創設を検討しています。

ここに書いてあるフードドライブも、この下に参考資料として記載してございますが、今年の 2 月 23 日に区役所 1 階で 1 回目のフードドライブを行いました。このときに 160 キログラムの食品をご提供いただきました。こちらのフードドライブにつきましては、1 回で終わらすことなく定期開催を行い、検証や、他区の状況等も確認した上で、常設の窓口設置という可能性も含めて区としては検討したいと思っています。

このほかに、板橋区としては「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」の活動にも参加しているところです。協議会では、宴会のときに、最初の 30 分と最後の 10 分は食べもの関係残さないように、みんなで食べましょうという「3010 運動」がございまして、これの宴会 5 か条の周知に努めているところです。

そのほか、生ごみ堆肥化講習会等で生ごみを処理する区民の皆さま方への支援を継続してまいりたいと考えているものです。

3 ページです。「容器包装等の発生抑制」です。検討の視点としては、容器包装リサイクル制度の趣旨に基づき、レジ袋の有料化等、販売店でできる取り組みを促進させる必要がまだまだあると考えています。衣類や家具類など、不用品のリユースは、こちらを体験できる機会を設けまして引き続き提供を行っていくことが必要と考えています。

参考資料としまして、「容器包装リサイクル法の見直し状況」です。容器包装リサイクル法は消費者の分別排出、市区町村による分別収集・選別保管、それと事業者による再商品化と、そ

れぞれ役割分担がございます。今申し上げましたのは、真ん中にある容器包装リサイクル法の概要と、この図で示しているものです。

そのほか、レジ袋の排出抑制を進め、このレジ袋を多量に使用する販売店。ここに書いてありますスーパー、コンビニ等につきましては、抑制のための措置としまして削減の取り組み状況や使用量を国に報告するというものが義務付けられています。これを受けまして、大手チェーンストアをはじめとしましてレジ袋の有料化が今現在進みつつあるというものです。

4 ページ目でございます。昨年 5 月、国の審議会から容器包装リサイクル制度の評価検証に関する報告書が出されております。市区町村にとりましては、ここに書いてあるように容器包装プラスチックの分別収集費用、こちらの負担が重いというものがございます。

プラスチックの再生品の質をさらに向上させることが検討課題にあがりましたが、抜本的な制度変更は行われませんでした。仮に、全ての容器包装プラスチックを分別収集の対象とした場合、中間処理施設の確保や費用面で区に相当重い負担がかかっていくことが、ネックとなりますが、その状況につきましては変化はしていないと言えるものです。

ここで考えられる施策の方向性というところでは、先ほど申し上げましたが、レジ袋の無償配布の中止、そのほか店頭回収の推進などを販売店に働きかけていく。それと、「いたばしエコショップ制度」。今現在板橋区でも行っているわけですが、登録店舗が極端に少ないです。こちらのあり方につきましても引き続き検討をしていきたいと思っているところです。

リサイクルプラザ等を拠点としました活動を充実させ、区のイベント等での不用品のリユースを体験できる場等を提供していきたいと思っています。皆さま方のご意見、どうぞよろしくお願いいたします。

○石垣部会長：ありがとうございました。ただいまの資料 2 のご説明に関しまして、委員の皆さまからのご意見を頂戴したいと思います。ご意見ございましたら、ぜひよろしくお願いいたします。

○小泉委員：レジ袋の無料配布廃止は、だんだん社会的になってきている部分はあると思います。意外とレジでもらったほうが買うより安い部分が出てきたりする。いわゆる結構大きい袋ですよ。普通のスーパーのレジで売ってるのは、今 2 円ぐらいなのかな。市販されているのは、あの大きさ 20 枚で 100 円とかだと思うんですよ。

逆にいうと、レジで買ったほうがよっぽど安かったりとかする部分が出てきて、何か趣旨と方向性が合っていないと感じる。ただ、これが 1 枚 10 円とかで売って消費者が怒らないかという部分はあるんだけど。やってるのと方向性が何かちょっと違ってる部分もあるんじゃないのかという部分がある。

あと、フードバンクをやるのはいいと思うんですけど。片方で「買わないで」とは言わないけど「買うのやめましょう」と言いながらも、片方で「それを出せばいいじゃん」みたいなところもある。どっちを本当にやっていくのが、見えてこない。申し訳ないんですけど。

それは板橋区だけでなく国全体として、そういう動きなのかなとも思える。



○石垣部会長：まず、ご回答がございましたらお願いします。

○新井清掃リサイクル課長：レジ袋につきましても、やはり店舗によって金額的な面というのは違うケースがあるのかなと思ってます。一番の目的としましては、マイバッグを持参していただいてというのが方向にあると思ってるところですが、確かに 2 円で売ってたりとか、10 円で売ったりとか、お店によって違うのかなと思っているところです。

あと、フードバンクの関係です。フードバンクにつきましては、食品ロスを考えていただくというところでは、例えば備蓄していただいているものも、有効期限ですとかを、見返していただくことが、必要になってくると思っているところです。

必要なものだけを買うという部分と、取っておく部分ということでは、痛しかゆしの部分はあるんですが。この部分については皆さま方のご意見等いろいろいただきたいと思っていますところです。

○石垣部会長：一般消費者にお願いする部分と小売店等に働きかける部分と両方あり、区として、当然強く言うことはできないかもしれませんが、やはり姿勢を示すということが重要です。

板橋区は何を考えて、レジ袋の金額のことをどうしてほしいという主張があるのか。あるいは、フードバンクのことや、小売店にフードロスの排出量を削減するためにどういうポリシーなのかというところ。仮に、すぐそれが発生抑制につながらないかもしれないですけども、そういうのを見せるというところはすごく大事です。そういう主張を含め、メッセージを出すという意味では重要なかなと思います。

ただ、残ってる議題が非常に難しい部分であるということも事実ですので、解決策というのを探るのは本当に難しいところはあるんだということをご理解いただきたいと思います。

○依田委員：私は買い物に行くときにはちゃんと袋を持って買い物に行きますけれど、持てないものは配達してもらうんですね。それで、配達してもらくと、品物別にいっぱいビニール袋を入れてくるわけなんです。ああいうのもったいないなとも思いますけれど。

有料になると、それじゃそれ何袋かそういうふうになるのか。スーパーで何かいい考えがあって、1 つのカゴならカゴに注文したものを入れてくださるとか、であればいいんですけど。今は品物ごとにビニール袋に入れてくるわけなんです。そうすると、1 回買い物するともものすごいビニール袋が増えちゃうこともあるので、何とかそういう考えを持っていただくこともいいのかなと、ちょっと思いますけど。

○石垣部会長：ありがとうございます。

○手島委員：すいません。フードバンクなんですけども。例えば、本当に家庭の中で余らせてはいけなものかも分かりませんが。仕事を持てますと、どうしても「あ、これは使うかも分からない」とか。それからセールになってれば、「あ、これはちょっと買っときましょう」とかね。そういうものを循環して使っていければそれは賢い主婦なんだろうけども、やっぱり

仕事の合間にご飯つくって家事をしていると、どうしても溜まりがちになるんです。

それで、このフードバンクの制度っていうか、この設置ですね。これは大変ありがたいです。それで若い人たちは、今の30代、40代ぐらいまでは賞味期限が切れてるともう駄目って言うんです。私たちは、切れてても自分たちで食べてみて、においと味とで変わりなきやOKなわけですけど。今の若い人たちは、溜まってるのが多いという声をよく聞きます。

ですから、こういうものを常時でなくても結構ですから、例えば板橋区役所と赤塚出張所とかっていうところに週に1度置いていただくことができると、かなり罪の意識から逃れられるんじゃないかという感じがしております。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。今お話しいただきました、週1回までできるかどうか分からないんですが、まずは検証という意味では今お話しいただきました区役所だけでなく、赤塚方面ですとか、そのほか商店街の皆さま方にご協力いただいてスペース等があれば、そういう中でもやっていきたいと思っているところです。

昨年度、2月に1回やったきりでございます。今年につきましては別途計画するのと同時に、区民まつりですとかイベント関係でも機会を捉えて実施していきたいと思っています。

あと、賞味期限のお話でございますが。こちらのほうに提供していただく場合には、若干期限は取ってあるようなかたちのものをお願いします。

○手島委員：ただ、賞味と消費は違うということです。

○石垣部会長：区役所が、公にそれを「いけるかな」とか言えないと思いますけど。

○手島委員：OKと言うと、皆さん切れたのをお持ちになることが多いと思いますので、それは注意書きに書いておいていただくということで。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。

○石垣部会長：もし、流通のほうの、宅配とかの部分に働きかけみたいところでもしご回答がありましたら。難しいですか。

○新井清掃リサイクル課長：いずれにしても、そういう商店の皆さま方には、こういう私どもの取り組み等につきましてはきちんとご説明申し上げるとともに、不用という言葉に語弊があるかもしれませんが、余分な袋を使うとか。そういうものにつきましては、いろいろと皆さま方の協力をいただいきたいと思うところです。

○吉田委員：先ほどのフードドライブとか、これは非常にいいかと思うんですけども。でも、一般の家庭の中で、それをどこまで認識してるかっていうことですね。うちなんかもそうなんですけども、買い込んではそのままになってるのが結構あるみたいですので、フードバンク

に出せるという知識を、家庭にある程度普及させないと難しいのではないかなと思うんですけれど。

○手島委員：認知度がすごい低いんですよね。

○吉田委員：低いんですよね。

○新井清掃リサイクル課長：今お話しいただきましたとおり、まだまだ皆さま方に周知という面ではいろいろ考えていく必要があると思っていますところです。今回 160 キロということで 500 個前後の食料品関係が集まりました。ただ、「あ、こういうことやってたのね」っていうようなお話も、おいでになった方にもいただいております。それはやはり周知が足りなかったのかなと思っておりますので、いろいろな工夫しながら、ただ広報に載せるだけ、ホームページに載せるだけっていうのではなくても、今 SNS 等、即時性のある情報発信もできますので、そういうのも使いながら皆さま方にお知らせするとともに、このフードドライブの根本的なお話、内容、こちらもお伝えしていきたいと思っていますところです。

○長谷川委員：私から 2 点ほどです。ぜひ頑張ってくださいという前向きのコメントです。

まず 1 つは、食品ロス関係の話です。東京都の立場で言いますと、これぜひやっていくという立場でシステムを構築しています。これ、少し長い話になるんですが、食品ロスというのは世界的に見ても結構課題になっている事項です。

例えば、国連ですね。国際連合の中では、持続可能な開発をしていくためにはどうしていったらいいのかということで目標を定めております。SDGs という言い方をするんですけれども。その中で、2030 年までに食品ロスを半減するという目標を掲げると私は記憶しています。世界的にも食品ロスというのはしっかり対応していかなければいけないという流れになっています。そういう意味では、日本国内でも農水省の調査で 600 万トン以上ですかね、年間食品ロスが発生しているという状況があります。これの対策はしっかり講じていく必要があるだろうと思います。

都は、特に着目しているのが加工とか流通段階のところから遡って食品ロスを何とかならないかということを考えています。業界のルールが、これも記憶が少し定かではないのですが、時間軸的に消費期限まで引いたときに、確か 3 分の 1 ずつで加工するとき、それから、出荷するときに、この範囲までのものしか出荷できない。まだ消費期限までであるのに、もうこの段階になったら引き上げなきゃいけないとか。ちょっとそういう加工とか流通のところそういうルールがあるために食品ロスが発生しているというような話もあります。

ステークホルダー会議といって、加工業者とか流通業者、こういった人たちを集めた会議を都として開催し、食品ロス対策というのが何かできないかということを進めていくことになっています。そういった観点からも、板橋区においてもぜひ積極的に食品ロス対策に取り組んでいただきたいなと思っております。

2 点目ですが、レジ袋の話がございましたね。こちらもぜひ取り組んでいただきたいという

話です。こちらは、小池知事が非常に力を入れたと思っている事項ですね。と言いますのは、フランスのパリ市は、レジ袋はもう有償になってるんですね。無償では絶対配ってないということなんです。小池知事は、パリ市のイダルゴ市長との関係もあって結構着目しておりますので、都としても頑張っていかなければならないだろうということで取り組みを強化しています。

確かに、1枚5円とかだったら買ったって安いって話も先ほどございましたけれども。どちらかという意識改革・働きかけの観点で、5円を安いと見るかなんですけれども。そのときに、「1枚5円になりますよ」と言って払うか否かとなると、100人いればたぶん100人が払うとは思いません。そこでそういう意識改革がなされればいいということです。

逆にいうと、無償でレジ袋を配るということは原則ゼロにしていきたいということを目指に掲げています。都としては、2020年までには何とかレジ袋の無償配布をゼロにしていきたいというふうに掲げて取り組みを進めています。

例えば、これもいろんな方が絡みますので、協議会を設置するということ。スーパー、コンビニ、販売業者であるとか、消費者団体の皆さまであるとか、区市町村の方々。こういった方々と協議会を組んで、どういうふうにやっていけるか。こういうのを検討していくということになっていますので、ぜひこの点については、板橋区においてはしっかり取り組みいただければと考えております。

○石垣部会長：ありがとうございます。

○新井清掃リサイクル課長：本日、実を言いますと、午前中に関連の会議に私出てまいりまして。やはり、そういう面では板橋区としてもしっかりと考えを打ち出しまして、それに対応等をしていきたい思っているところです。レジ袋の問題にしろ、フードドライブにしろ、きちんとルールに乗ったかたちで継続的にやっていけるように頑張っていきたいと思っているところです。

○石垣部会長：都の取り組みがあると、板橋区も後ろ盾じゃないですけどしっかり進めやすいというところもあるかと思います。一方で、それが社会全体で大きなムーブメントといいますか、皆さんが認知していただいたときに「板橋区何もやってないじゃないか」ということもないように、できるだけその流れの中とか、もしかしたら先端に行くようなかたちでどんどん推進していき、認知度を上げるというのもそうですし、それからそういう流通であるとか加工であるとか、そういう事業者の方に対する取り組み方や働きかけというのも積極的にしていただきたいと思います。

ほかに、ご意見いかがでしょうか。前回も、この辺のお話もいただいてご説明もいただいた中で、今日も資料を用意していただいてというところです。なかなか難しくて、ちょっと厳しい言い方かもしれないですが、具体性とかそういうところに関してはちょっと書きにくいとか、見えないようなところもあるかもしれませんが。

指標とかそういうところだけではなくて、もっと長期的な視点で区民の暮らし方であるとか、ものづくり、消費行動全体を含めて、少しずつ変えていかなきゃいけないと。マインドを変え

ていかなきゃいけないっていう部分が重要なのかなと。そこに対するメッセージを出しているんだというところでもいいと思いますので、区分をぜひ強く打ち出せるように取りまとめていただければなというふうに思います。

そのようなかたちで、この資料 2 についてはよろしいでしょうか。

○竹内委員：1 つだけよろしいですか。コンポスト化の家庭内処理というところで限られている世帯ってありますが、板橋区にはどのくらいの世帯が、この園芸等に使ってますか。

○新井清掃リサイクル課長：申し訳ございません。数字的には今現在持ち合わせてないんです。やはり、今できるということでは、ベランダですとかそういうところでもコンポスト化できますし、段ボールを使って堆肥をつくる。そういうこともいろいろできます。ですから、今現在対象となる方というふうなことでは、数字的には押さえてはいないんですが、皆さま方意識のある方につきましては、私どもとしましては今までどおり支援はしていきたいと思ってるところです。

○石垣部会長：これは、区のもともとやっていたコンポスト事業っていうのが、そもそも縮小したみたいな背景もあるんですよね。

○竹内委員：利用できる世帯の数は。

○新井清掃リサイクル課長：そうですね。そうしますと、例えば園芸の場ですとか、あとは家庭菜園みたいなものを行っている皆さま方とか。本当に極々限られた方しか、区民の皆さま方ということでは使えないというような状況になってるところです。それがどのくらいというのはちょっと把握はできておりません。

○竹内委員：限られた数ですよね。あえて、これ活かす必要があるのかと思うぐらいの数じゃないかと思うんですけど。

○石垣部会長：確かにそれはそうですね。

○田坂委員：私、商売柄、30～40 年前に会社でコンポストを計画しまして、実情を見てこいというので長野県を見学して回ったんですがね。2 つあった設備は全部もう工場の中ができたコンポストでいっぱいになって、動かなくなっていました。そういう例があるんです。あんないい肥料でどうして。ただ、プラスチックの欠片がいっぱい混じってて、見た目極めて汚らしいんです。それでじゃないかと思うんですがね。あんないい肥料を、どうして使わないのか。

○石垣部会長：堆肥の活用というのは日本全国でもなかなか。いろいろ頑張っておられる自治体はありつつも、やはり量としてはなかなか伸びない。あるいは、それこそ地域としても限定的

であるということがあるんですね。どこでもこれができるというものではないというのは、割と皆さん周知というか、ご存じのとおりになってきてると思いますね。

その中で、家庭内ですね。今ここでお話ししているのは家庭内のコンポスターとか、そういうところの支援とかって話だと思うんですけども。それを板橋区が積極的に推進していくというような、残念ながら流れではないというところがここに書かれているんだというふうに理解しています。大型のコンポストを区でどうするっていう話は、また別のところでお話があると思いますので。

○竹内委員：あともう一点よろしいですか。参考資料の図3なんですが。新聞のごみとして排出のところに、可燃ごみと不燃ごみが12トンもあるというふうに。新聞の中で不燃ごみが12トンあるっていうことはどういうことなんですか。

○新井清掃リサイクル課長：2ページの上のほうの表でございます。①のところでございますが。新聞のほうにつきまして、これは全体量から割り出したような状態でございます。ただ、やはりいずれにしても、可燃ごみの中には3,500トン強、そのほか不燃ごみのほうにもやはり12トン入っています。

○竹内委員：結構多いですね。

○新井清掃リサイクル課長：この0.3%、これは組成調査の中で0.3%含まれていたというものがございましたので、こちら不燃ごみの総量としまして3,447トンございますので、その0.3%ということでおよそ12トンぐらい含まれているのではないかと数字でございます。確かに12トンというのは多いかもしれないですが、1年間を通じた皆さま方の排出というところでのこのぐらいの量だろうと考えています。

○竹内委員：新聞で不燃なんてちょっと考えられなかったものですから。

○新井清掃リサイクル課長：やはり、いろんなものを包んだりなんかして出したりとかっていうのがあるのかもしれないです。そのような状況でございます。

○小泉委員：陶器が割れたのをけがしないように包んで捨てたりとかするのもあると思う。

○石垣部会長：組成の調査をするときは、そういういろいろ雑多に出てきたものをそれぞれまた分けて、「これは何だ」「何だ」ってやっていきますので、そういうものも、それは陶器ではなくて陶器と新聞紙に分かれちゃうんですね。最後は算定の方法によるところも大きいと思います。

○竹内委員：ありがとうございます。

○吉田委員：よく見られたくないものを包んで出すとか、そういうことありますよね。新聞紙に包まれて。

○石垣部会長：それでは、次の議題のほうに移りたいと思います。「資源分別によるリサイクルの推進について」ということで、資料 3 をご準備いただいておりますので、こちらのほうをご説明よろしくお願いいたします。

○新井清掃リサイクル課長：それでは、資料 3 をご覧ください。こちら、一廃計画第三次では、プラスチックのリサイクルのあり方と雑がみなど古紙類のリサイクル推進が検討課題となっております。これらの品目を中心にしまして、分別収集や集団回収、拠点回収によるリサイクルの推進について検討の視点、考えられる施策の方向性ということで、こちらのほうにお示しさせていただきます。

はじめに、1.1 としまして「プラスチック類のリサイクル」でございます。検討の視点としましては、第三次の計画期間中に容器包装リサイクル制度の大きな改正が行われていません。従いまして、策定時点での検討で課題となりました容器包装プラスチックを全て分別収集した場合の施設確保や費用負担は引き続き残っています。

区では、第三次の計画に基づきまして、トレイ・ボトル類のモデル回収を全区拡大する予定でいるところでございます。しかし、昨年の 6 月から開始しましたこれらの回収量につきましては、推定発生量の 11%程度の水準となっています。リサイクル率の向上など期待される効果はなかなか得られるものではなくて、より一層分別の徹底が必要と考えているところです。

「プラスチック類のリサイクルに関する検討経緯」でございます。第 3 次の検討では、容器プラスチックを全て分別収集するという案と、トレイ・ボトル類に分別品目を拡大する案というふうに比較検討させていただいております。その結果、環境負荷の低減、総コストの低減、区民の分かりやすさ、施設や収集体制の確保等を総合的に勘案しまして、板橋区としましては、トレイ・ボトル類の分別回収を目指すというものでございます。

この下にございます図表 1 です。これにつきまして比較検討した結果を図表にまとめたものです。ごみの減量効果と環境負荷の減少効果では、全面分別ほうが長けているわけではございますが、排出する区民の皆さま方の分かりやすさや費用の面、それらを総合的に判断しまして、こちら右側の分別品目拡大というケース 2 のほうを板橋区は取らせていただいているものです。

1 枚おめくりください。トレイ・ボトル類の排出量でございます。トレイ・ボトル類につきましては、先ほどの参考資料 2 ページの図表 3 でございます。こちらのほうに記載がございまして、10 行目、11 行目になります。こちらのほうをご覧くださいまして、重量的には両方合わせまして 1,840 トンと推定されるものでございます。こちら、区民の皆さま方 1 人 1 日当たりが 9.2 グラムというようなことになっております。

また資料 3 のほうに戻っていただき、仮にごみに出されておりますトレイ・ボトル類、これが 1,840 トンでございます。これの 7 割としまして約 1,300 トン。こちらが資源としてきちんと分別され回収されるということになりますと、区のリサイクル率、こちらが 0.7%程度上昇するというものです。

食品トレイにつきましては、スーパーなどの販売店回収に、排出されるものもございます。資源に出される量ということでは正確には分かっておりません。私どもでの回収の量だけでございます。

続きまして、28年度のトレイ・ボトル類モデル回収実績です。昨年6月から大規模マンション約200カ所。そのほか一般の集積所約50カ所。こちらのほうでモデル回収を開始したところ。今年3月までの回収量としましては、合計で11トンというものでした。モデル回収実施世帯から全区で回収した場合の回収量を推計させていただきますと、およそ208トンになると考えています。

こちらでは、区民1人1日当たり1.02グラムということになりまして、(1)の推定排出量9.2グラムの11%程度にとどまっているものです。

続きまして、「(3) 考えられる施策の方向性」では、モデル事業を全区に拡大しつつ十分なPR・啓発事業を併せて実施し、トレイ・ボトル類の回収量増大を目指していくものです。

もう少し具体的に申し上げますと、トレイ・ボトル類の基準を明確化するとともに、現在のモデル地区での回収量が上がっていないところもございます。それに対しましては、このトレイ・ボトルが何に生まれ変わるのか、なぜ全部のプラスチックではなくこれだけなのかといったことを、改めましてチラシなどでお知らせしていきたいと思っております。この検証を行った上で全区に拡大していきたいと考えています。こちらにつきましても、ご意見等お願いしたいと思っております。

右側のページです。「古紙類のリサイクル」です。現状につきましては、新聞・雑誌の消費量が減少傾向に今現在なっているところです。一方で、ごみの中にはまだまだ資源化可能な古紙が多く含まれています。区では、昨年度から「紙パック」「紙箱・紙袋・OA用紙」の回収を集積所回収では全区で実施し、回収量は157.4トンです。

平成27年のごみとして排出されました雑がみは、7,800トンございます。それと比べますと、2%の量でしかないというものです。雑がみの種類・分け方など認知度の向上がまだまだ必要と考えています。

「(2) 雑がみの排出量」です。雑がみのほうにつきましては、参考資料の2ページです。こちらの上から5行目にございます。排出量としては7,800トンと推定されます。これにつきましては、区民1人1日当たり38.9グラムです。仮に、ごみに出されている雑がみの7割程度の約5,500トンが資源として分別され回収された場合には、区のリサイクル率が3.2%程度上昇というものです。

先ほどのトレイ・ボトル両方合わせますと3.9%、約4%です。平成27年度の目標としましては25%を掲げているところですが、実績は17.7%でした。仮に、今申し上げた程度、上昇すれば21.6%となるわけですが、まだまだ目標には届いてないという状況です。

平成27年度の段階では、集積所回収・集団回収では雑がみ類は雑誌などに挟んで出されているものもございます。資源に出される量ということでは正確には把握できていないものでございます。

(3)でございます。平成28年度「紙パック」「紙箱・紙袋・OA用紙」回収実績です。こちらにつきましては、先ほど申し上げました157.4トンは、区民1人1日当たりでは0.77グラ



ムです。

一番下でございます。「(4) 考えられる施策の方向性」につきましては、トレイ・ボトル類の回収の全区拡大の機会を活用し、自治会・町会・集合住宅単位での説明、協力要請を進めていく必要があると考えております。また、「かたつむりのおやくそくハンドブック」での分かりやすい記載を今後も行っていきたいと思っております。集団回収の実施団体数は年々増えていますが、回収量が減少している状況がございます。このような中、「紙箱・紙袋・OA用紙」といった雑がみの回収も併せて呼びかけていきたいと思っております。

最後、4 ページとなります。「その他資源リサイクルの推進」です。検討の視点につきましては、布類の集団回収、拠点回収で回収されていますが、まだまだごみに出される量が圧倒的に多い状況です。アンケート調査によりますと、布類や乾電池、廃食用油などの拠点回収に対する認知度がまだまだ低く、2 割程度にとどまっています。これが今の検討の視点の中で大きなところを占めているものです。

続きまして、「繊維や衣類の排出量」でございます。平成 27 年度のごみへの排出量は、年間約 6,400 トンということで推定されているものでございます。これも参考資料の 2 ページの図表 3 でございます。こちらの 8 行目に繊維・衣類の記載がございます。

平成 27 年度の集団回収による回収量は 310 トン、拠点回収による回収量は 74 トンです。まだまだ着られるような衣類につきましては、リサイクルショップやフリーマーケットなどで回っているような状況です。その量につきましては、申し訳ございませんがこれも把握できていないようなものです。

(3)「考えられる施策の方向性」です。布類などの拠点回収については、拠点の充実を図るとともに区民への周知を徹底させることが必要だと考えています。高齢世帯の方を対象とした拠点回収品目の回収サービス等も今後検討していくことも必要と思っております。

以上、雑ばくな説明ではございますが、いろいろな視点からのご意見をいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○石垣部会長：ありがとうございました。資料 3 では、プラスチック類のリサイクル、特にその中でもトレイ・ボトル類のお話があり、それから古紙のお話があり、その他というところで布類であるとかその他のものに関する話がありました。

どれに関してでも結構ですので、皆さまからのご意見をお願いしたいと思います。今のご説明に対しまして、ご質問であるとかご意見であるとかありましたらよろしくお願いいたします。

○吉田委員：トレイ・ボトル類っていうところがはっきり分からないんですけども、ペットボトルとトレイと。ボトルというのはペット以外のボトルという意味なのかどうか。

○新井清掃リサイクル課長：ペットボトルではなく、プラスチック関係のボトルになります。

○吉田委員：私の住んでるところではペットボトルはペットボトルで集めて。あと、水曜日なんですけども、包装類をペット類とかトレイとか一緒に全部集めて袋で出せるんですよね。

結構そのほうがすごく便利かなと思ってんですけども。

○小泉委員：品目が違うからまた種別しなくちゃならない。

○吉田委員：種別しなけりゃいけないですかね。それともう一つは、大手スーパーですと、ペットボトルなんか持っていけばポイント制でやるから、そっちのほうに持ってくる人も多いし。あと、トレイも結構そういうふうに集めてる大手スーパーさんもあるんですよね。だから、少しメリットを出してあげれば結構分別して持ってきてくれるかなという気がします。

○石垣部会長：ご意見ありますか。

○新井清掃リサイクル課長：確かに、いろいろな面で皆さま方同じ出すのであれば、前回のときのお話もございましたが、新聞なんかも販売店に出すとトイレトペーパー1つと交換していただくとか。メリット関係あるのかとは思いますが。区としましては対象が多いです。そうしますと、費用対効果等もいろいろな面で検討していかなければならないと思っています。

ですから、私どものほうとしましては、リサイクル等につきましての皆さま方へのご理解を積極的にPR・周知していきながらご協力をいただくというようなことになるかと思っています。

○石垣部会長：重要なのは、今スーパーに出されているものを板橋区に出してもらうのは全然重要ではなく、ごみの中に入ってくるものをきちんと区のほうで回収する。あるいは、それをきちんとスーパーのほうに分けて持ってたらかんないことあるよっていうだけでも別に構わないと思うんですよね。

ただ、今はそれがいってない現状があつて。それがなぜか。それから、その人たちのためにどういう手を打つのがいいのかが重要だと思います。たぶん、メリットのところだけやっていると、そこの食い合いにしかならない気もちょっとしています。もちろん、情報を伝える、認知度を上げることも重要かと思いますが、何か別の手があるのかなという気がします。

○小泉委員：今の部分では、たぶんスーパーに持っていきたくても帰りに買ってきちゃう人が多いと思うんですよ、実態は。だから、家庭ごみのほうでいかにリサイクルして出させるのかっていうのが一番ポイントなんだと思います。

ただ、うちなんか見ても、トレイって1日1枚、2枚。出て2枚なんだと思うんですよ。ボトルに関しては、正直いって見てた感じではなかったんですよ。そういう中で、リサイクルに回すのはすごくいいことだと思うんですけど。ただ、可燃ごみが極端に減るかというのと、ちょっと違うのかなと思うのが一点ある。

次の紙なんですけど。紙って結構個人情報がかかっている部分というのはあると思うんですよ。紙屋さんが大変になってきて旗色がよくないのが現状だから大変なのかもしれないけど、やっぱビニールで出してもらえようなかたちにして、秘密が簡単に見られないっていう仕組みを

していかないと、増えない気がするんですよね。紙袋に出せって言ったって、そんな紙袋も、そんなにないのかなっていうのも現実あったりする部分がある。

あと、程よい量の集まり方っていうのも、あっていいのかなって思うんですよ。地球を壊さない程度の集め方っていうんですかね。本当にみんながやっちゃったら、たぶん地球おかしくなっちゃう部分もあるんでね。その辺は、やらなくてはならないんだけど、どこまで本当にやらなくてはいけないのかっていうのを、さっきのプラスチックだって、やろうと思えば何でもできちゃうけど、費用対効果とか、施設の問題とかあるんでしょうから。

そこら辺をどこまで見ていくのかというのは、やっぱり重要な部分なのかなと。みんな全部集まったら本当にパンクしちゃうんでしょうけど。でも、やらなきゃいけないんだと思うんですよね。だから、理解ある人だけでもやってもらえて、徐々に増やしていくとか。そういうのがあってもいいのかなっていうふうに、ちょっと話聞いてて思いました。

紙はぜひ、そういう機密性というのは絶対あったほうがいいような気がするんですよね。

○手島委員：まず、前提として、皆さんの認知度が低いんです。ですから、ごみの収集のところに、「月曜は何」「火曜は何」って書いてあるんですけども。それのもっと認知度を高めるために、もうちょっと詳細に書いていただくと、ある程度は皆さん理解してくださるかなっていう。例えば、「この日は不燃物です」「この日は何とかです」って言われても、「燃える？」「燃えない？」っていう感じなので、もうちょっと具体的に書いていただきたいと思います。

それからもう一点。今の紙の書類なんかの機密、自分の個人情報をほかの人に見られないために。今すごくいいペンが出てるんですよね。そこをなぞると全部消え、絶対出ない。そういうものがあるということを区民の皆さんに認知していただく。そのためにはどうするかということをお考えいただけるとありがたいと思っております。

○石垣部会長：事務局はどうですか。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。まず、認知度につきましては本当にそのとおりで、まだまだ私ども一生懸命周知していかなければいけないと思ってるところです。

また、行政回収と集団回収の部分を、お出しになられる皆さま方は、分かっているところもあり、そういうのも私どもの周知が足りないという部分もございます。

雑がみ関係出す場合も、集団回収ではこれはもう一括して雑誌の関係のほうに入ってしまうんだと。行政回収でやる場合では分けて出すとちゃんと分けて持っていくものもあります。この辺をしっかりとやっていく必要があるのかなと思っています。

それと、前回も小泉委員のほうからもお話しいただきました、個人情報の関係につきまして、今手島委員からは消えるペンみたいなものもあるというようなお話もございました。それぞれ使い道等はあるかとは思いますが、そういうのがあるという周知も必要かなと思います。

それと、個人情報の部分につきましては、例えばビニールじゃなくても紙袋ですとかそういったものに入れて出せる方策とかを、考えていかなければいけないのかなと思っておりますし、皆さま方からのご意見等もいただければ、これらも含めて私どもも解決策というのを見つけ出

していきたいと思っています。

○依田委員：雑がみのことなんですけれど。もう本当にいろんな宣伝の本が来ますよね。それがすごいたまっちゃって。あと、私いろんな会議に、東京都のほうにも出てますもので、その会議のいらなくなった書類、そういうものを捨てたいんですけど。先ほど小泉さんがおっしゃったようにそういうごみ袋の中に入れていいのか。紐で結ぶところではないぐらい、1年間でたまっちゃうんですね。

それをどうやって出したらいいのかと思ってまして、そしたらこういうふうに書いてありますけど。一緒に宣伝用の雑誌っていうんですか、そういうものとか、一緒に出せるようなあれだとありがたいんですけどね。どうなのでしょう。一緒には出せないんですか。

○新井清掃リサイクル課長：私どものほうでお願いするとなりますと、やはり雑誌関係とコピー用紙というかOA用紙は分けてお願いするというのが基本になるわけですが。可燃ごみに混ざるよりはそちらのほうの雑誌等と一緒に出していただくほうが、まだ資源として循環させていくものです。可燃ごみに混ぜるよりは雑誌と一緒にお願いしたほうがまだいいと思っていますところですが、私どもの立場でいいますと、やっぱり分けて出してくださいということになります。

○吉田委員：OAの紙というか、あるんですけど。家庭でも先ほど言った個人情報見てるとシュレッダーにかけて出すとか。もちろん買わなきゃいけないんですけどね。あと、企業も同じですよ。やっぱりシュレッダーかけて出す。だから、見られたくない情報が見られないようなかたちでパッキングするとかであればまだいいんですけど。やっぱり見られちゃまずい。どっかでばらまかれたら困るとかいう感じがあるんで。そこら辺の集め方を工夫したほうがいいんじゃないかと思うんですよ。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。まず、シュレッダーの関係で、確かに見られちゃいけないようなものに関してはシュレッダーという方策はあると思います。ただ、そうなりますとこれは分別というよりは可燃ごみ、ごみの扱いになってします。やはり、それ以外の部分で大丈夫なものほかにも、やはり今言いましたように表に見えないような袋に入れるとか、そういった方策が一つ取れるのかなと思っています。

○石垣部会長：実際に個人情報、プライバシーを守らなきゃいけない紙の量自体が、古紙のリサイクルに関わってくるほど非常に多いとは思わないんですけども。「ああ、それを分けなきゃ」とか、「これ、一緒だとまずいな」と思うような、そのバリアというか障壁がすごく大きいと思うんですよ。その心理的な負担を軽減してあげることによりかなり気分的に出しやすくなるということは大きくなるかもしれないですね。

○小泉委員：僕が言ってるのは、本当に機密の情報なんてそんなにはないですよ。ただ、正直い

ってこれは見られたくないとか、どこで何かしてるのが全部分かつちゃうのが嫌だっていう。見やしないんだろうけど、気分的にそういうのがあるからレシートとかそういうのだって破って捨ててあったりね。見られたって大したことないですよ。そういうのも含めて結局ごみに出ちゃう。だったら、ビニールとか。それでも開ける人はいますよ。だけど、比較的安易に見られないようなシステムが必要ではないか。気分の問題なので。

○石垣部会長：やっぱりそっちのほうが大事な部分もありますので。例えば1人暮らしの年ごろの娘さんに対しては「そういうのはしっかり管理して捨てたほうがいいよ」と、それは親御さんも言うでしょうし。その辺は仕方がない部分だと。

○手島委員：ですから、個人情報がどこまで本当に大切にしなければいけない個人情報かなんですよ。例えば、今日、今これいただきましたよね。そうすると、これをパソコンで取り込むなりして1年間かなんかちゃんと置いとかなきゃいけない。じゃあ、終わったあとに、これは個人情報じゃないわけですよ。そうすると、ここの送っていただいた封筒。これの名前のところが個人情報なのか。そしたらば、それはペンで。そういう便利なペンありますけども、場所取らないし。それが嫌だったら、ハサミでそこだけ切ってあと出せばいいことであって。

それが、例えば1日に100通も200通も自分の名前を切るっていうのは大変かも分かりませんが、1日に4〜5枚だったら切れると思うんですよ。だから、自分にとって何が大切な個人情報なのかという選別を個々がする必要があるんじゃないかというように思います。

○小泉委員：それはそうなんだけど。ただ、人によって子どもは子どもなりに大事なものがあつたりとか、そういうのがあるから。やっぱり、それは見せられたくないとか見たくないという部分があつたりするわけですよ。誰が出したかというのを特定しようと思えばできちゃう部分もあるから。やっぱり、雑がみというのは見えないように出したほうが、それはトラブルがない部分なんだと思います。

○吉田委員：どっかで何か知られたら困るって気持ちはどうしてもあるから。じゃあ、破って捨てちゃえとなるんですよ。

○手島委員：だから、例えば株券の何とかとかね。

○小泉委員：そういうのじゃなくても、出てるごみっていうのがいっぱいあるんだと思う。それをいかにリサイクルのほうに持っていくかっていうのが大事なんだと思う。それは出しやすい環境にするというのが大事。

○吉田委員：そうですね。出すほうが安心して出せるというふうな気持ちになれるかどうかだと思うんですよ。

○石垣部会長：個人の皆さんは、やはり個人情報がすごく重要だと思いますし、自治体含めて事業者の皆さんは機密性という観点でそれを管理されるわけですね。もちろん、ものすごい秘密文書があるわけではないんですけども、外に公開してない情報というのは全て機密性のランク付けをして情報管理をされている。その代わりきちんと文書の階級付けといいますか、クラス分けをきちんとされてる。それにのっとって出さなきゃいけないという部分はある。あるいは、保管期間をきちんと指定される。そういうのはあると。

個人の皆さんはやはり個人情報、プライバシー。そういったところをすごく気にされる方は気にされるべきだと思います。ただ、世の中の風潮として「え、あなた、それを気にするの？」っていうところも。ちょっとオーバーになってる部分はあるやに感じられるというところだと思いますね。だから、そこをどのぐらい自治体の方が口出しできるかっていうところは、ちょっと難しいので何とも言いにくいですけど。どうでしょう。

○戸田委員：今、雑がみの中でコピー用紙がすごく出てるんですけど。雑がみっておっしゃったときには、お菓子のパッケージ、紙箱、ああいったものもですよ。ですから、コピー用紙のことはいろいろと個人の中でランク付けっていうか、個人情報の重要度っていっぱいあると思うんですけども。お菓子のパッケージ。普通にお店で売ってるお菓子が入っている紙とか、いただきもののお菓子の箱とかっていうのを雑がみで出してくださいっていうような、そういうこともできると思うんですよ。

コピー用紙も入ってますけど、雑がみの中で重要なのはそっちよりもむしろお菓子の箱。私は、ときどき気が向けば、ティーパックの袋も袋に入れて一緒に出しちゃうんですね。そういうふうな宣伝の仕方もあるんじゃないですか。コピー用紙については、それぞれ個人の考えがあって、やっぱり燃えるごみで捨てたいっていう方もいらっしゃるし、出してもいいんじゃないかって。出してもいいんじゃないかっていう方は出せばいいのであって。お菓子の箱とか、本当に包み紙。紙でできたものだったら出せるんじゃないかっていうようなことを、もっと周知させたほうがいいんじゃないかと私は思うんですけど。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。今お話しいただきましたように、お菓子の箱ですとか、あとティッシュの箱もそうでございます。ただし、ビニールの部分は取っていただくという。お菓子もそうでございますが、銀色の何ですかね、中袋みたいなものがあればそれも取っていただく必要はございます。

それと、OA 用紙は、全て雑がみ扱いになりますので、その中に入れるのも一つの方法だと思います。いずれにしても、やはりこれをきちんと皆さま方にやっていただくという上では、皆さん楽なようなかたちで、出しやすいという方策を考えなければいけないのかなと思っていますところでございます。

すぐにできるかというのはちょっと何とも言えないところですが、長続きさせる、分別しやすく出していただくことが、出していただく皆さま方に少しでも楽な方策は考えなければいけないと思っています。

○石垣部会長：それと、今、紙一つとってもいろんな部分のご意見が出てます。それを全部聞くのも確かに重要かもしれませんが、この計画の中で、どこにターゲットを置くことが重要なのかっていう視点を持ってまとめていただけるといいと思います。

ちょっと、今回の3ページの資料というのはそこが割と雑ぱくにまとめられているので。狙うべきは、本当はお菓子袋なのか。それとも、狙うべきはOA用紙なのか。取るべき方策というのはだいぶ変わってくると思います。

○手島委員：何回も申し上げますけど、リサイクルの意識・理解はあるんです。方法の認知度が低いように、私は重ねて申し上げますけど、そこをもうちょっとご考慮いただくと大変ありがたいと思います。

あともう一点。そういうところに出したので、自分の個人情報は何らかのあれで盗まれて事件が起きたとか事故が起きたとかっていうのは、現実にあるんですか。

○新井清掃リサイクル課長：今のところないと私どもは考えておりますし、そういうようなお話は、来ておりません。

○石垣部会長：事件化されているかどうか分からないんですけども、何々学校の同窓会とかそういう名簿を抜き取っていってるという話は聞いたことがあります。それが何かの事件につながってるかどうかは分かんないですけども。でも、そういうのはやっぱり気を付けられたほうがいいですよ。ほかによろしいですか。

○長谷川委員：資料3に関して1点だけ。これは少し検討というお話になってしまうんですが。プラスチック製容器包装の分別の関係の話なんです。こちら、コストの折り合いとかで方向性としてはトレイとボトルのモデル回収というものをさらに拡大していくというような方向性で論じているんですが。

こちら、確かに財政的負担というのは非常に大きいということが比較の中にもありますし、あと、途中で中間処理施設もつくらなきゃいけないとか、そういう話もあったと点は承知はしているのですが。

例えば多摩地域とかでいいますと、多くの市・町では既にプラスチックの容器包装に関する分別が、かなり行われているという実態があります。それから、23区に関しても約半数、都の所管部署の話ですと12区と言ってましたけれども、既に全面的に容器包装の分別というのを行っているという実態がある。

ということを考えますと、それでごみの減量に成功してるということがございますので、よろしければ前向きに全面的な分別というものについて検討を。確かに、コストの面了承してまうけれども、ご検討いただくということが必要ではないかというふうに思います。以上です。

○新井清掃リサイクル課長：今現在としましては、昨年の6月からこのようなかたちで実施しているものです。それは、その前段で全面分別・分別品目の拡大という2つのケースで検討した

ところでございます。今後の部分としましてどのようなになるかというのは、まずはトレイ・ボトル関係。こちらのほうを区内全域で回収した上で、その上で考えていきたいと思うところです。

ただ、これで終わりということではない。ほかの部分についてもいろんなケースが出てくれば検討してまいりたいと思います。

○石垣部会長：私もやはりそれは長谷川委員の言われたとおり、今前向きにとおっしゃいましたが、かなりそれは強く、できるだけ早期に、そういうかたちで全面的に行けるように方向性を示すべきなんじゃないかなと思います。

そのために、例えば何が本当に課題となっていて。費用負担が問題ですよという世の中全体の雰囲気として書かれているのか。板橋区の中でそういう部分を調達するという部分に大きな問題があるので今はできないということなのか。具体的にそれは課題としてあげていただいて。もしできないのなら、解決すべき課題としてあげていただくほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

それとも、そこをやったとしてもなかなか効果が得られにくいという見通しがあってちょっと今回は見送るとか、あるいは先送りにするというのであれば、その解析というか根拠というのはきちっと示されるほうがいいかなと思います。

ほか、いかがでしょうか。骨子、それからその他の部分、布も含めてですけれども。いろいろ広範な部分で資料を作成していただいています。時間がございますのでご意見伺いますが、いかがでしょうか。

○田坂委員：現板橋清掃工場の能力は、板橋区内のごみ発生量を十分に消化されているのでしょうか。

○新井清掃リサイクル課長：その辺はもちろん大丈夫でございます。そのほかに、板橋区だけでなく近隣区からも受け入れしているところでございます。ですから、その辺につきましては十分賄っているところでございます。

○田坂委員：リサイクルをそこまで精密に考える必要はないんじゃないかと思うんですがね。ごみ焼き炉が十分に処理能力があるんならね。私は昔ごみ焼き炉の設計会社をやっておったんですが。灰の処理のほうがずっと重要な気がするんですが。

○新井清掃リサイクル課長：燃やしたあとの灰ということで、一時スラグ化というものもございました。ただ、これにつきましては電気を相当使うものでございます。3・11の震災等がございまして、電気の使用ということでは見合わせてる部分がございます。現在はどうしてるかといいますと、出てきた灰につきましてはセメントと一緒に混ぜるようなかたちで次の使用というようなことでは今実際に行っているのと同時に、検討してる最中でございます。



○田坂委員：しかし、焼却で発生する電気はそっちに使ってもいいんじゃないんでしょうかね。

○石垣部会長：清掃工場の発電量というのは、今考えられているよりも少ないのです。

○長谷川環境課長：補足させていただきます。委員のおっしゃるとおり、板橋清掃工場の処理能力からすれば十分処理できるんです。それから、電気の話は今されてたんですけど。今現在売電ということで発電したものを東電が、今また契約の相手方が昨年度から変わりましたが、電力自由化の関係で。どちらにしても、売電をして、それで収入を得ているという状況になっています。

今、清掃リサイクル課長から説明したとおり、主灰についてはセメントの原材料ということで引き受けをしていただいているんですが、これ有料になってるんですね。お金払ってセメントの原材料に今使っているというかたちになっています。なぜそういうふうになってるかという、スラグの需要があまり上がらない。一時期いろんな清掃工場でスラグ化してたんですけど、需要がないので2工場だけ設備を残してあとは、最終的にはその設備廃止というかたちになると思いますけど、今表向きは休止というかたちで。

売電して清掃一部事務組合として収入を得ながら、主灰についてはセメントの原材料にしてください、埋立処分量を減らすと。そういう方向で今進めて、29年度はさらに処分量を倍にするという計画を一応アナウンスしてるところでございます。

○田坂委員：了承しました。

○石垣部会長：適正処理に関しては、一廃処理基本計画の中で今回特段の課題としてはあげられてませんが、言及はあると考えてよろしいでしょうか。

○長谷川環境課長：今後出てくる話です。板橋区としての一廃処理基本計画ですから、収集運搬だけではなく中間処理や最終処分も一自治体として最後まで責務がございますので、当然言及するというかたちでございます。ただ、処理の仕方として23区共同で中間処理をするか、あるいは東京都に委託して最終処分場で処分していただくかたちを取ってるだけでございます。費用については清掃一組と東京都へ、分担金として区で負担しているところでございます。

○石垣部会長：おそらく多くの方はこの課題にあがってないことはもう書かれないんじゃないかというご心配をされているところもあるんじゃないかと思いますので。それは大丈夫だということですね。ほかにいかがでございましょうか。

この資料はリサイクルに関することで、その前に発生抑制というところがありましたけれども。周知等の話をしていく中では不可分のところもありまして。例えば、ボトルの排出量は、「ボトルなんかそんなに出ませんよ」と先ほど小泉さんがおっしゃったように、それはもう大変いいことだと思うんです。例えば、ボトルの分別回収しますという周知をするのが一つは重要なんですけれども。それだけではなくて、ボトルが出ないような購入をしましょうという周

知も併せてやっていくっていうのが重要だろうと。

いわゆるリサイクルよりも発生抑制のほうが明らかに今は上位に位置付けられています。そちらの取り組みを当然強く周知していただき、認知していただくという部分が重要なんじゃないかなと思います。今、それぞれで課題ごとに話をされてますのでちょっと別々に見えますけども。実際にはそれを一体的に進めていただく策だと思いますので、ぜひご検討いただければなと思います。

○田坂委員：プラスチックのリサイクルについては、リサイクルして洗って粉碎してと考えると、焼いちゃったほうが早いような気がするんですけどね。それで新品に直したほうが経済効果としてはいいような気がするんです。これはこれで結構な熱量を持ってますんでね。発電すればそっちのほうがエネルギーの回収になっていいような気がするんですがね。いかがなものでしょう。

○長谷川環境課長：委員のおっしゃるのも一面だと思います。今プラスチックの話が出たので、分別ごみとして集めたときから、今のように可燃ごみとして一緒に集めるというのは、いわゆるサーマルリサイクルということで、区民の方のご理解のうえで、今やってるところなんです。今、板橋区のほうは、そうはいいつつも、よりリサイクルを進めたほうがいいということで、今特定のトレイとボトルについては回収しましょうということでやってます。

ただ、委員がおっしゃってるとおり、収集時にかかる環境負荷。それから今水の洗浄の話出しましたが、サーマルリサイクルじゃなくてマテリアルリサイクルの場合は、当然途中で運搬して細かく砕いて。そこにもエネルギー使いますし、水という貴重な資源を使ってきれいにすることもあります。最終的な製品がピュアな品質かというと、いわゆるカスケードリサイクルということで原材料がリサイクルするたびに質が少しずつ下がるという、そういう現実もございます。

そういったものを含めて、環境負荷と経済的なものと、それから資源として使う意義。それらを総合的に委員の皆さま方に判断していただいて、どういうのがベストミックスで、板橋区が目指す清掃リサイクルのあり方というを考えていくのがこの部会なのかなと思っています。

○石垣部会長：もし、ほかに委員の皆さまからご意見ございましたら。どうですか。

○吉田委員：ペットボトルの回収法で今言ったように洗ってるというのは、最近ちょっと新聞かなんかで見たのは、ピュアな人たちでほとんど回収できる技術の開発もあるというふうに聞いてますんで。だから、その進歩も見ながら、それに対応できるようなシステムづくりをしたほうがいいと思うんですよね。

○長谷川環境課長：今委員のおっしゃったように、いわゆるケミカルリサイクルということで品質のかなりいいものも確かに出てきています。ボトル to ボトルのリサイクルができれば、ペットボトルがそのまままたペットボトルとして使えるということもあります。

ただ、集める段階でどれだけ不純物を混ぜないかとかいろいろ別な課題もございます。出てきた品質がどうというの也有りますけど、衛生的にどうかという面もございます。いろいろな面を含めて一番いいリサイクルの方法、あるいはごみとして処理したほうがいいのか、リサイクルとして資源として集めたほうがいいのかっていうのは、皆さま方のご意見をどんどん出していただいて一番いい板橋の清掃リサイクル事業を構築していく方向で検討していただければと思います。

○田坂委員：ペットボトルは、キログラム当たり 9,000 キロカロリー以上持ってますから。

○吉田委員：エネルギーはそういうことかもしれないですけども。

○小泉委員：現状、ペットボトルを全部本当に燃やすとなると、たぶんカロリーが高過ぎてごみを送るの遅くなりますよね。

○田坂委員：クレーンの運転手の、これ感覚なんですかね。

○石垣部会長：違います。そこで元のカロリーを上げたって発電できる量っていうのはそんなに上げられないはずです。装置の問題です。民間企業と違って、じゃあ、そこが元を変えるのでどんどん装置を投資していきましょうという、残念ながら時代ではないです。今ある装置をきちんと使ってできる範囲でやっていくっていうのがポイントかなと思います。

それともう一つ。世界的にはパリ協定なんかもそうですけれども、脱炭素・低炭素という流れはもう明確になっております。やはり、こういうプラスチック類をまずリサイクルするんであればサーマルではなくてきちんと、ボトル to ボトルっていうのは無理だとしても、何らかの資源としてリサイクルしていく。

そうでなければ、そこにコストがかかる、環境負荷がかかるのであれば、それは燃やせばいいじゃないかではなくて、そういうものを使わないように発生抑制を、あるいはマテリアルをちょっと変えるべきだと。そういうふうな流れに持っていけないといけないんだと思います。

SDGs の中でも持続可能な調達っていう考え方が出ております。要は、「エネルギー持ってるからそれ燃やしてエネルギーつくればいいじゃん」ではなく、持続可能でないものはできるだけ排除していきましょうっていう流れになっています。決してそれに逆行するような計画はつくべきではないと私は思いますし、ぜひ板橋区にはその中で、世界の流れの中でトップランナーを目指していい計画をつくっていただければなと思います。

○田坂委員：それに関してですが。一言言わせてもらいたいんですが。炭素云々言ってますけども、結局植物の体をつくるのは全部炭酸ガスであって。例えば、アブラヤシなんかの、オイルパームなんかをつくると普通の植物の 3 倍か 4 倍の炭酸ガスが処理できるわけです。というより、炭酸ガスがないとそっちの生産ができないわけです。だから、一方的に炭酸ガスを、それじゃ、エネルギーを水素に求めるかということと同じことなんです。水素も結局放射を持っており

ますし、また輻射熱の受け入れもやります。ガスの中で放射できるのは炭酸ガスと水素だけなんです。

○石垣部会長：オイルパームは、今増やし過ぎて熱帯の生態系を破壊している非常に大きな問題になっております。それから食糧生産量もそれで落ちてるという問題がありますので、今ここであげるのは適切ではないですし、今回の議題ではないですのでちょっと省略させていただきます。

○田坂委員：分かりました。

○石垣部会長：リデュースの話と資源分別によるリサイクルの推進というところでご説明をいただいています。全体を通してもし追加でご意見いただきたいとか、あと前回の話のまとめも含めましてちょっと忘れたところがあるよというところがありましたら、もう一度。

○吉田委員：一番最後に「かたつむりのおやくそくハンドブック」での分かりやすい記載を検討するということになってるので、私は全部把握してないけども、絵とかいろいろ使ってやってますよね、これね。だから、これをもっと分かりやすくやって区民の人たちが使いやすいようにしていったら、意識改革をしていったほうがいいんじゃないかとは思いますが。

○小泉委員：ユーチューブか何かでも画像が流れてたと思うんですけど。今流れてるのかどうか分かんないけども。

○新井清掃リサイクル課長：ユーチューブを使いまして、これも出るようになっております。また、親しみやすく手に取りやすいようなものというのが重要なことと私どもは認識しておりますので、できる限り分かりやすいように考えていきたいと思っております。

○石垣部会長：特に年代別に親しみやすいメディアっていうのもあると思いますので、そういうインターネットを通じた広報が効く年代の方もいらっしゃるし、そうではない、紙でもそうですし、あるいは集積所とか、細かい説明があるほうがずっと分かりやすいという方もいらっしゃいますので、きめ細かないろんな策を練っていただければいいかなと思います。

○長谷川委員：1点だけなんですけども。例えばプラスチックに関していうと、リサイクルに回すのか、それとも技術的な面、コスト的な面で、今の段階でいうとやはりごみとして燃やしたほうがいいんじゃないかっていう、いろいろご議論があったと思うんですけども。

これに関していいますと、プラスチックというのはご存じのとおり石油資源の経由になってきます。こういった資源関係の議論の流れというのは、資源制約があるとか、そういった中で、いかに資源効率をよくするか。あと、そういったものから出たものをどういうふうに循環させていくか。そういった議論が今たぶん主流であるというか、そういう観点で議論していく必要があるというふうに考えますので。

これって廃棄物処理計画で一定の年限を切った計画になると思うんですけども。ある程度大局的な視点、あるいは時間軸的にいうと長期的な視点。そういったことも踏まえて議論していただくということも必要ではないかなというふうに、ちょっと私思いましたので、最後に申し上げさせていただきます。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。もちろん、これで8年間のスパンで私ども今回策定するわけでございますが。その中でも中長期的、いろいろな部分で出てくると思います。それぞれに分けたようなかたちで、皆さまに分かりやすいようなかたちでお示ししていきたいと思っています。

○石垣部会長：ほかにはよろしいですかね。時間もそろそろまいっておりますので。

○中尾委員：最後に一言、すいません。商工会議所ということで、企業で同様に板橋区のこのリサイクルに協力できるかいろいろ考えております。先ほどの発生抑制という意味ではフードバンクとか、そういったNPO法とできるだけ共同して、例えば倉庫とか駐車場なんかを提供することによって、定期的にフードドライブとか開催できる方法があれば考えていきたいなと思います。

また、先ほどちょっと出た大型のリサイクル品ですか。そういったものも、1カ月に1回駐車場なり何なりを貸し出して「毎月第3木曜日はここに持ってきてくれれば板橋区の人に取りにきてくれるよ」とか。そういった具体的な方法ができるのかななんて思っております。

同様のことでコンポストとかいろんなことが、また発生抑制に関して企業としてどんなことができるのかなといろいろ考えていきたい。同時に、企業にこういうことをやってもらいたいというふうに逆に皆さんからご意見を頂戴できればと思っております。

1つだけ。やっぱりシュレッダーしたごみは燃やすごみに今なっております。私も1週間にだいたい45リットルの袋めいっぱい詰めてシールを貼って出してるんですけど。いつももったいないなと思って出しております。先ほどもちょっと意見ありましたが、あれをシュレッダーして何とかリサイクルのほうに回せばなというような区のほうの考え方をちょっと変えるってということも一つの方法かなと思っております。

○石垣部会長：ありがとうございます。

○田坂委員：シュレッダーはむしろ有効でして。第1次処理をそっちでやってるようなものから、それはもったいないなと思う。非常に有効なんだと考えてほしい。

○新井清掃リサイクル課長：ありがとうございます。フードドライブですとか、大型家具、リサイクル品ですとか。本当にご協力いただけるということであればどんどんお願いしたいという部分もございます。私どものほうで考えてる部分といろいろお話しさせていただきながら進められるのかなという意味では、大変心強いです。

シュレッダーのお話もございました。今現在では、燃やすごみというふうなことになります。もちろん、これ古紙問屋さんのほうのベール掛けですとか、いろんなかたちのものがございます。その中で適用できるような状況とかあれば、その辺についてはできれば資源のほうにとこもでございます。その辺については今後きちんと確認させていただきながら、一番よりよい方法を考えていきたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

### 3. 閉会

○石垣部会長：長時間にわたってさまざまなご意見を頂戴いたしました。この部会、まだ引き続き何回か続きますので、ぜひまたこういうフィードバックを踏まえて事務局のほうからいろいろご意見取りまとめていただければと思います。今日の意見も参考にさせていただいて、次のまた資料づくりであるとか計画本体の作成に役立てていただければと思います。

○新井清掃リサイクル課長：本日ご審議いただきました内容につきまして、もし何か別途ございましたら、来週 6 月 14 日の水曜日までに事務局にお知らせください。こちらで調整させていただきます。可能な限り次回の部会で報告させていただきたいと思っています。

また、第 3 回の清掃リサイクル部会につきましては、7 月 3 日の月曜日午前 10 時からの開催を考えているところです。詳細につきましては、また改めましてご連絡を差し上げます。

次回第 3 回につきましては、本日に引き続きまして、次期計画の策定に向けての課題、施策の方向性についてご審議いただく予定です。具体的には、主要課題でございますごみの減量、リサイクルの推進のうち、効果的な普及啓発および適正処理の推進です。

また、本日議論し切れなかった部分につきましては、また別途行いたいと思っているところでございます。事務局のほうからは以上でございます。

それでは、これで第 2 回の清掃リサイクル部会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。